

北海道室蘭區輪西北海道製鐵株式會社

鳥取縣西伯郡米子町西町

福岡縣八幡市尾倉蛭子町六丁目

東京府南葛飾郡砂村關東製鐵所内

福岡縣八幡市製鐵所内三菱製鐵株式會社出張所

大阪市西區島屋町住友鑄銅所

大阪府西成郡玉出町南浦湯淺伸銅所

東京市本鄉區駒込曙町三

神戶市川崎造船所兵庫工場製鐵科

佐世保市海軍工廠造兵部

大連市山縣通第七十一區八十號

福岡縣八幡市通町五丁目滿鐵出張員詰所

朝鮮鎮南浦府億兩機里

京城市滿鐵管理局運輸課

兵庫縣武庫郡大社村森具六六〇

名古屋市南區熱田東町字夜寒十一

東京府千駄ヶ谷町四八〇

大阪府豐能郡岡町錦通三ノ一三二

大 齋 田 亥 之 次	今 本 愛 一	佐 藤 耕 夫	江 藤 捨 三
大 野 牧 野 馬 若	箕 田 文 肥	蝶 久 助	松 村 孫 作
大 野 胖 田 又 百	鈴 木 文 衛	佐 村 兼 一	佐 村 兼 一
河 田 勝 治	河 田 勝 治	高 橋 利 吉	高 橋 利 吉
高 山 内 淑 人	高 山 内 淑 人	山 田 良 二	山 田 良 二
岸 木 村 弘 人	岸 木 村 弘 人	岩 田 又 百	岩 田 又 百
白 倉 貞 烹 昇	白 倉 貞 烹 昇	好 久 太 郎	好 久 太 郎
理 由	理 由	ヘシ	ヘシ

茲ニ日本鐵鋼協會造船協會機械學會電氣學會建築學會火兵學會ハ此危機ニ
際シテ憂慮措ク能ハス致テ自ラ揣ルニ違アラヌ特ニ委員ヲ選ヒ聯合調査ヲ組
織シテ鐵材ノ供給ニ關シ現下並ニ將來ニ處スヘキ方策ヲ攻究シタル結果該委
員ハ以下列記各項ノ遂行ヲ最モ緊要ナリト認メタリ

一 應急自給策トシテ製鐵業ノ調節ヲナスコト

◎六學會聯合調查會成案

曩ニ英米兩國が鐵材の輸出を禁止したる以來本邦鐵鋼材の不足を感すること切なり茲に於て各學會より撰出せられたる委員に於て聯合調查會を組織し數回會合審議の結果左の覺書を調製し野呂君寺野君今岡君加茂君片岡君の五氏同

會を代表し去る頃寺内總理大臣を訪問し意見を陳述せられたり其節提出せる覺書左の如し。

凡ソ工業ハ邦家ノ存立ヲ鞏固ニシ國防ヲ充實セシムルノ基礎ニシテ其盛衰ハ製鐵業ノ消長ニ伴フ所頗ル大ナルモノアリ近時我邦ノ工業異數ノ發達ヲ遂

由來我國ニ於ケル製鐵所ハ歐米ニ比シ平時ニ於テスラ既ニ遙ニ多額ノ設備費ヲ要セリ殊ニ現時ニ在テハ其企圖經營ニ何レモ平時ニ數倍スルノ資本ヲ費セルヲ以テ曩ニ政府カ發布セル製鐵業獎勵法ノミヲ以テシテハ未タ全ク現下ノ不利ヲ補フニ及ハス故ニ他日平和克復ノ後ニ至リ輸入鐵價

給スルノ途ヲ講シ以テ之カ援助ヲナスヲ要ス
尙輸入可能ノ鐵材ハ出來得ル限り之ヲ外國ニ仰キ因テ生スヘキ餘力並ニ
設備ヲ他ニ轉換スルカ如キ亦急ヲ要スルモノノ一ナリトス
二 國內ニ於ケル製鐵業ノ經營促進ニ就テ後顧ノ憂ナカラシムルノ方策ヲ樹
ツルコト

理由

ノ暴落ニ遭フモ尙能ク其經營ヲ持続スルノ保證ヲ得サル限り現ニ明ニ缺乏ヲ告クルノ材料ニ對シテモ其製作ニ要スル設備ヲナシ又ハ現設備ヲ擴張シテ生産額ノ増加ヲ企ツルニ躊躇スルモノ多シ此故ニ國家ハ是等製鐵業者ヲシテ後顧ノ憂ナク其生産額ノ増進ヲ企圖セシムル爲メ更ニ關稅引上生産費補給等ノ保護方策ヲ樹ツルコトヲ要ス

三 臨時製鐵原料調査局ヲ設ケ國内並ニ海外ニ於ケル鐵鑛並ニ石炭層ノ確實ナル調査ヲナスコト

理 由

現時國內並ニ海外ニ亘リ製鐵原料ノ調査ニ從事セルモノ尠ナカラサルモ各其利害目的ヲ異ニセルヲ以テ全然事業ノ統一ヲ缺クノミナラス其施設及ヒ方法ニ於テ未だ盡ク首肯シ得サルモノアリ殊ニ探鑛困難ノ場所ノ如キハ往々ニシテ閑却セラルヲ免レサルカ如シ故ニ此際政府ハ臨時發電水力調査局設置ノ例ニ倣ヒ製鐵原料ノ所在地其鑛量運搬並ニ收得ノ方法等ニ關スル調査機關ヲ設ケ遍ク國ノ内外ニ亘リ製鐵原料ノ探求取得ニ對シ遺漏ナキヲ期スルコトヲ要ス

四 鐵冶金研究所ヲ置キ左ノ事項ヲ調査スルコト

- 一 資鑛不純鐵砂鐵ノ精鍊
- 二 製鐵用骸炭及爐材ノ製造
- 三 特殊鋼並ニ特殊製品ノ製造
- 四 鍊鐵ノ製造
- 五 電氣製鐵

理 由

叙上ノ事項ニ對シテハ各製鐵所ニ於テ既ニ相當研究ヲナシツツアルカ如キモ作業本位ノ場所ニ於ケル此種ノ研究ヘ其成績ヲ擧クルコト概々遲緩ナルノミナラス時シテ満足ナル効果ヲ收メ得サルコトアリ故ニ獨立專門ノ研究所ヲ設ケ廣ク斯道ノ人材ヲ網羅シテ調査研究ヲ進メ我邦製鐵業ノ進歩發達ヲ助成セシムルヲ要ス

五 電氣製鐵業ノ促進ヲ圖ルコト

理 由

電氣製鐵ハ骸炭其他燃料ヲ要スルコト尠ナク且ツ其製品ハ概々優良ナルヲ以テ水力豐富ニシテ骸炭材料ニ乏シキ我國ニ在リテハ當然獎勵スヘキ

性質ノ事業ニシテ而カモ小規模ノ經營可能ナルヲ以テ此際水力電氣製鐵事業ニ對シテハ特殊ノ獎勵保護方法ヲ講シ以テ該事業ノ促進ヲ圖ルコトヲ要ス

六 鐵鑛其他製鐵原料ノ輸入並ニ國內運搬ニ對シ出來得ル限リノ便宜並ニ保護ヲ與フルコト

鐵鑛產出地ト製鐵所所在地ト相距ルコト遠キ獨逸國ノ如キニ在リテハ鐵鑛運貨ノ輕減カ製鐵事業ノ發達ニ貢獻セル所實ニ大ナルモノアリシハ實例ノ證スル所ナリ故ニ現在及將來ニ於テ製鐵原料ノ大部分ヲ國外ニ仰クノ必要アル我國ニ於テハ其輸入並ニ運搬ニ對シ特殊ノ便宜並ニ保護ヲ與へ且ツ國內僻陬ノ地ヨリスル鐵鑛ノ搬出ニ對シテモ亦相當ノ便宜ヲ與フルコトハ製鐵業ノ促進生産費ノ輕減並ニ外國品トノ競爭上必須ノコトニ屬ス

七 製鐵用骸炭ノ原料タル石炭ノ濫用ヲ防クコト

理 由

本邦ニ於ケル石炭ハ其埋藏量世界ノ工業國中ニアリテ最モ少ナク製鐵用骸炭ノ原料タリ得ヘキ石炭ニ至リテハ其量殊ニ乏シ故ニ政府ハ遍ク本邦產出ノ炭質ヲ精査シ其骸炭製造ニ適セルモノハ特ニ其濫費ヲ戒シムルコトヲ要ス

理 由

本邦ノ製鐵業ハ主トシテ輸入原料ニ俟タサル可カラサルヲ以テ原料取得ヲ目的トセル邦人ノ海外經營ハ固ヨリ便宜上國外ニ於テ經營セル製鐵事業ニ對シテモ亦保護獎勵ノ途ヲ講シ我邦ニ於ケル鐵材ノ供給ヲ潤澤ナラシムヘク企圖スルコトヲ要ス

以上記述ノ諸項ニ就テハ固ヨリ當局ニ於テ既ニ相當ノ施設ヲナシ其調査モ亦進行中ニ屬セルモノアルヘキモ聯合調查會ハ此際政府カ特殊ノ機關ヲ設ケ是等事業ノ迅速且ツ完全ナル遂行ニ對シ遺漏ナキヲ期セラレンコトヲ望ム

大正六年十二月

聯合調查會委員氏名

工學博士 今 泉 嘉 一 郎

定款改正案

ヲ加フ

第十四條 但書ニ「連續」ノ二字挿入

第二十八條二十九條三十條ヲ新ニ設ケ前二十八條以下順次

繰下ヶ舊第四十一条第四十二条ヲ削ル

第二十八條 評議員會ハ理事會ノ決議若クハ會長ニ於テ必

要ト認メタルトキ又ハ評議員五名以上ノ請求ニ依リ之ヲ

開ク

第二十九條 評議員會ハ理事及評議員ヲ以テ組織ス

前會長ハ評議員會ニ出席シ議決權ヲ行フコトヲ得ルモノ

トス

第三十條 評議員會ハ拾名以上ノ出席ヲ以テ成立ス

但シ出席シ能ハサルモノハ他ノ出席員ニ委任シ代理セシ

ムルコトヲ得

舊第二十九條正會員ノ會費五十錢トアルヲ六十錢ニ准會員
ノ會費三十錢トアルヲ三十五錢ト改正スルコト

定款施行細則改正案

第七條ヲ左ノ通改ム

役員ノ改選ニ就テハ豫メ評議員會ニ於テ候補者ヲ推選シ

總會ノ日ヨリ少クモ二週間前ニ正會員名簿ト共ニ之ヲ正
會員ニ配布シ參考ニ供スヘシ

第八條ヲ削除シ第九條ヲ第八條トシ

一、編輯委員ノ前ニ 一、常務委員ノ項ヲ加フ
第九條ニ常務委員ハ理事ノ職務ヲ補佐スルモノトス」ノ項

第十五條ヲ改正シ

理事會ハ理事及常務委員ヲ以テ組織シ會長之ヲ主宰シ會
務ヲ協議決定ス」ト改ム

第十七條第十八條ハ新定款第二十八、二十九、三十條ト抵
觸ニ付削除

第十九條ヲ第十七條トシテ以下順次繰上ク

右にて總會を終り左の演説ありたり（演説速記は次號に掲
載すヘシ）

日本鋼管會社の新製鐵計畫に就て

工學博士 今泉嘉一郎君

鐵道と製鐵事業

工學博士 島安次郎君

暫時休憩の上（午時午後五時三十分）新橋驛樓上の東洋軒に
て催す會員の懇親會に移り出席者は左の諸君にして（二十
七名）

來賓 造船協會々長 寺野精一君

同 機械學會幹事長 田中富士太君

會員

阪田貞一君 高橋章三君 武田三郎君

湯淺鐵鋼店 加茂正雄君 斯波權太郎君

野長瀨忠男君 種子田右八郎君 日向庄作君

廣木八郎君 近藤高君 太田太君

桂辨三君 根本八君 朝倉希一君

高村 國策君 作間 鋼太郎君 大藤・良雄君

中島 正賢君 野呂 景義君 今泉嘉一郎君

香村 小錄君 島 安次郎君 遠藤 隆太君

原田 鎮治君

同十二月農商務省より工業用材料其他の統一に關する件
に付諮門ありたり、本會は各學會と聯合調査中に付不
成案を俟て答申すへき旨回答せり。

二、集會

評議員會 五回

建築委員會 一回

編輯委員會 十二回

三、會誌の發行

第三年第一號より第十二號迄を毎月一回發行せり。

四、會員數 大正七年三月二十日現在

正會員 五百六十六人

准會員 六百四十四人

贊助會員 一人

合計 一千二百七人

以 上

右及報告候也

大正七年三月二十三日

日本鐵鋼協會

會長 野呂景義

一、調査事項

昨年五月農務省鑛山局長より鋼質及び鋼材の標準規格制定に關し諮詢ありたるを以て數次評議員會を開き審議の上十月七日本會の意見を答申せり。

同六月工學會に於て明治工業誌編纂に付鐵鋼科の委員三名選定方の照會ありたるを以て本會は野呂會長香村理事長理事を委員に推薦せり。

同十一月工學會の發起に係るエンジニヤリング、スタンダード、コムミッティ外二件の調査に關し當協會よりは

野呂會長本會を代表し數次の會合に出席せり。

收入之部

正會員會費

二、七六五、〇〇〇

准會員會費	二、八九六、四二〇	會誌發行擔保	九〇七、〇〇〇
一時納會費	一五〇、〇〇〇	振替貯金基本	一〇、〇〇〇
入會金	二二七、〇〇〇	約東郵便擔保	二〇、〇〇〇
廣告料	六〇六、二〇〇	什器	三二〇、一五〇
預金利息	四三八、五一〇	電話買入金	六五〇、〇〇〇
雜收入	一一八、六〇〇	現金	七七、〇三〇
寄附金より借入	一、五九一、六三〇	會費未收入	二、一八七、〇〇〇
會費未收入	二、一八七、〇〇〇	以 上	二、一八七、〇〇〇
小計	九、九七〇、三六〇	右及報告候也	
前年度繰越金	七、九六〇、八四〇	大正七年三月二十三日	
合計	一七、九三一、二〇〇	庶務及會計主任	
支 出 之 部		理事 今泉嘉一郎	
會 費	一二八、四二〇	理事 香村小錄	
會 費	四、六二四、七一〇		
事 務	八〇一、一一〇		
報酬及手當	二九七、六六〇		
借地及借家料	一、三七七、〇〇〇		
諸 稅	六八、九七〇		
合計	七、二九七、八七〇		
差引殘高(次年度繰越)	一〇、六三三、三三〇		
此內譯			
銀 行 預 金	五、三〇九、八五〇		
振 賄 金	一、一五三、三〇〇		
火 災 保 險 料	八一、三三〇		
合計			
支 出 之 部			

194

家屋買入金

四、〇〇〇、〇〇〇

建築請負金内拂

五、〇〇〇、〇〇〇

設計料内拂

三〇〇、〇〇〇

建築諸雜費

二二八、〇四〇

合計

九、六〇九、三七〇

差引殘高

一六、七二五、二三〇

此內譯

銀行預金

一五、一三三、六〇〇

經常費へ立替

一、五九一、六三〇

外に

濟高三千八百五十六圓五十錢

以上